

梅窓院通信

No.128

2024/01/01

青山

今年もよい1年になりますように

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成

新年明けましておめでとう
ございます。令和六年の新春、
皆様はいかにお迎えでいらっ
しゃいますか。

私は今年の六月には六十七歳を迎え、古稀まであと三年です。もち
るん明日の事はわかりませんが、無事七十歳を迎えられましたら、副
住職に法灯を継ぐつもりでおります。副住職はまだ若く僧侶経験も浅
いので、この三年間、色々指導して参ります。とはいえ、梅窓院はいわゆ
る寺の仕事と同時に運営の仕事もあり、こちらはまだ私が関わります
ので、宗教法人の一員として責任を持つ立場でいるつもりです。

さて、この『青山』で、東南アジアの途上国に学校建設や医療支援を
進める水月会の代表としてウクライナに寄付した事をお知らせしま
したが、この度、その水月会の会長に就任することとなりました。三十
四年前二十三歳で梅窓院の住職就任時からの会員で、会員として在
籍してきただけなのですが、歳回りもあるのか、理事を経て、会長とい
う大役を仰せつかりました。国際社会への貢献に微力ながら尽くした
いと思っております。

昨年を振り返りますと、浄土宗大本山増上寺の御忌唱導師を勤めさ
せて頂いたことが一番にあげられます。先々代、先代に続く三代にわ
たる大役を皆様のご支援のもと無事円成できたことは、浄土宗の一僧
侶としては身に余る光栄でした。

寺院運営者としては空調整備から始まった第二次の大規模修繕を
無事終えさせて頂いたことです。つきましては檀家の皆様に墓地管理
費や護寺費の改定にご理解、ご協力を頂けましたことを改めて御礼申
上げます。

さて、今年も浄土宗開宗八五〇年の年となります。梅窓院でも施餓
鬼会に合わせ記念法要を厳修する予定です。皆様と一緒にこの勝縁を
祝わせて頂ければ幸いに存じます。



初本堂初勤行

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

俳

諧俳句の世界では挨拶句とい... ことが重要な領分を託されて...

そうしたわけで、季語の一つひとつもその始め、初物として「初」の字が...

初本尊を仰ぎ拝しての初仏事・初勤修、初太鼓・初鐘を大きく高く打つて、...

初開扉きりきりきりと軋みつつ (素香)

大きな山門の初開き、「きりきりきり」と記した中七がよく効いて、門扉の重々しい軋みによって、新しい一年が...

白足袋の鳴りて三拝初諷經 (はちす)

諷經とは「ふきよう」と読んでもよいが「ふぎん」と読み、読経諷誦のこ...

溪は、初木魚の音を「のんのんと」と聞いて、のどやかな新しい年への願いを込めたのである。

初護摩の火の子滅法とどまらず (菟絲子)

殿村菟絲子も「鶴」の同人で、加藤楸邨夫人の加藤知世子らと昭和の戦後、女性俳句会を興して広く活動し、後に「万蕾」を創刊し、主宰した。この句は、不動明王などを本尊とする密教の初護摩修法を詠んだもので、護摩木を焚く火の子の盛んに燃え上がるさまを「滅法とどまらず」と表現した。煩惱災厄の一切の滅尽へ向けての強い表現でもある。

堂内も初勤行に威儀正す (裕彦)

ここに私は改めて襟を正し、背筋を伸ばし、心して新年の挨拶をいたしたい。相手の人、まわりの人を思いやり、いたわり合えるように、挨拶句にいう賞美の心、褒美の心をよろしく含み漂わせることができるようなやさしい、あたたかい心遣い、気遣いができますように……、そしてそうしたおだやかな言い方、話し方ができますように……。

(大正大学名誉教授)

九十一年の

行事報告

秋彼岸会法要

彼岸寄席 9月23日(土)



祖師堂で執り行いました。

第84回

念仏と法話の会 10月5日(木)



ベトナム慰霊法要

十夜法要 11月18日(土)



秋彼岸寄席 三遊亭歌る多師匠



藤倉浩輝上人による法話

修正会



令和6年1月1日 (月)

修正会法要

午前10時～ 2階 本堂

※行程や場所は変更になる場合がございます。

※元日に温かいお茶をお配り致します。なお、数に限りがございますので
予めご了承下さい。

絵馬について 新年のお参りに来て頂いた方にお配りしている絵馬は、元日のみ1軒に1体のお渡しとさせていただきます。

2体以上ご希望の方は事前に文書(FAXかハガキ)でお申し付け下さい。
2体目から1体1000円でお譲り致します。

曆について 各檀信徒の皆様にご同封させていただきました。

2部以上ご希望の方はこちらにも文書(FAXかハガキ)にてお申込み下さい。
2部目から1部1000円でお譲り致します。

修正会とは

新年を迎えて最初の法要のことで、新しく始まる一年の人々の安寧と平和を願います。今はまさに各地での戦争が収まることを願いたいものですね。

修正会によせて

～東京浄青カンボジア研修旅行①～

まもなく新年を迎えますが、皆様はいかがが
過ぎでしょうか、

さて、度々お話ししてまいりました東京教区の浄
土宗青年会(通称・東京浄青)の企画によるカン
ボジア研修旅行に参加することとなりました。
東京浄青ではさかのぼること45年ほど前、一九七
八年、日本仏教青年会の要請を受けて、当時ポ
ルト政権のジェノサイドから逃れてきたカンボジ
ア難民を支援するため、街頭募金に立ち、また東
京教区内ご寺院からも寄付を募りました。翌年
にポルト政権はベトナム軍に倒されますが、
内戦が続き、破壊されたインフラや村落、虐殺に
よって失われた人材、諸外国からの孤立と、カンボ
ジアは貧困のどん底にありました。そこで、東京
浄青では一九八五年より『いのちの募金』を創設
し、各ご寺院とその檀信徒の皆様から寄付を募
り、JVC(日本国際ボランティアセンター)を通
じて、一九八八年から二〇二一年までの33年間に
わたって継続支援してまいりました。二〇二一年、
JVCの支援活動によりカンボジア国民の自立が
一定程度達成され、JVCはカンボジアでの活動
を終了しました。

今回の研修旅行では、JVCの最後の活動地
であるコンボンクダイを訪問し、JVCが現地の方
と協力して掘ったため池や、ため池を活用した菜
園を見学させていただき、菜園で農業を営む村
人にお話を伺う予定です。日本とカンボジア、同
じ仏教徒として、ご縁を結ぶことを期待して行っ
てまいります。

さて、まもなく修正会を迎えますが、皆様とご一
緒にお念仏できることを楽しみにしております。

合掌

(副住職 中島真紹)

浄土宗東京教区と梅窓院の

浄土宗開宗八五〇年慶讃事業

「法然上人が念仏の教えを確信されてから八五〇年」

浄土宗は令和六年に開宗八五〇年を迎えます。そこで、前回もご登場頂いた浄土宗東京教区教化団長の佐藤雅彦上人に東京教区がどのような活動・催しをするのかを伺いました。

そもそも浄土宗東京教区・教化団とは何だろうか？と思われた方も多いのではないでしょうか。浄土宗東京教区・教化団は東京にある全ての浄土宗寺院（四三七ヶ寺）が所属している団体です。地区ごとに分かれており、梅窓院は城西組に所属しています。

活動内容は多岐にわたりますが、最近ではデジタルコンテンツに力を入れており、週に一回YouTubeで「3分WEB法話」を配信しています。ちょっとした時間に分かりやすい切り口で仏教に触られるので、好評を博しているのだとか。詳細は公式ホームページにてご確認ください。

そして、その音頭を取っている方こそ、浄心寺住職・佐藤雅彦上人。二期目となる東京教区教化団長を務めており、今一番、力を入れている開宗八五〇年の慶讃事業の一押しを直々に教えて頂きました。

まずは令和六年二月二十三日（金）に増上寺大殿で執り行われる開宗八五〇年慶讃記念法要・別時念仏会。中でも東京教区の十の地域で撮影をしたお念仏映

像を上映しながら行う別時念仏会は新しい試みだそうです。さらに、法要後は国民的アーティストのさだまさし氏によるコンサートを開催。また、寺力フェアや物産展など心躍る催しがたくさん行われます。

続いては、令和版『回向文集』『仏事の手引き』の刊行。葬儀や法事で、お坊さんのお経の意味が分からずちょっとモヤモヤ、なんて経験があったりしませんか？そんな方のために、お坊さんが故人のためにどのようなお経をあげているのか、分かりやすく現代語訳した本を制作。これを読めば法要がより一層、胸に響くものとなるでしょう。

このように、開宗八五〇年慶讃事業はインパクトが大きい催しや檀信徒に寄り添った企画が目白押しとなっています。これについて佐藤上人曰く、東京の特徴は人と人の距離が遠いのと同じく、お寺とお檀家様の関係性が希薄になりがちだと指摘をされます。そのため、数少ない交流の中でも印象に残るようなアプローチが出来るよう意識して活動をされているそうです。

気になる慶讃事業がございましたら、浄土宗の開宗八五〇年公式ホームページもご覧下さいませ。

最後に梅窓院主催の慶讃行事ですが、五月十八日（土）の大施餓鬼会に併せて記念法要を厳修します。ぜひご参列下さい。

浄土宗東京教区教化団長 佐藤上人からのメッセージ

浄土宗全体として「念仏から始まる幸せ」をテーマに法然上人のお念仏を伝えるという使命はありますが、難しい仏教用語を並べたところで相手に伝わらなければ意味はありません。仏教の知識がなくとも、手を握るだけで手の温もりや温かさを人の心に届け動かせることもあります。「3分WEB法話」ではお盆や彼岸など仏教的なテーマとは別に、今を生きること悩んでいる方が多い中で抛り所になるようなテーマの動画もあるので、隙間時間に触れて頂けると励みになります。



浄土宗東京教区青年会の 開宗八五〇年記念行事念佛行脚

(梅窓院↓増上寺)

同時同行念佛行脚とは、法然上人のお念佛のみ
教えを一般の方々にも広く認識していただくため
に、全国の各教区のご僧侶が同時期にお念佛をお
称えしながら行脚する行事です。

十月二十日(金)浄土宗東京教区青年会が梅窓
院から、六本木、東京タワーを経由し大本山増上寺
までお念佛をお称えしながら行脚しました。



法然上人浄土宗開宗八五〇年 記念ミニコンサート

(浄土の調べ)

十一月十八日(土)梅窓院十夜法要の後に、東京
三田・浄土宗大信寺(三味線寺)住職の中村孝之上
人・之音企画による浄土宗開宗八五〇年記念ミニコ
ンサートが祖師堂にて開催されました。檀信徒の皆
様には、本堂での僧侶による読経がなじんでおられ
ると思いますが、今回のコンサートでは、その法要で

唱えられているお経が歌として
演奏されました。さらに、どこ
かで耳にした懐かしい曲が、テ
ノールとバリトンの美声によつ
て響き渡りました。



左からピアニスト・黒木直子、テノール・渡邊公威、
作曲家・中村孝之、バリトン・村林哲也

第85回念仏と法話の会

2月1日(木)開催

「自分の死を見つめて生きる」

浄心寺住職 佐藤雅彦上人

※詳細は同封チラシをご覧ください。

念法会の申込はこちらから



開宗八五〇年慶讃事業についてご意見・
ご不明点のある方は、次のご連絡先まで。

浄土宗東京教区教務所

TEL:03-3434-3045 FAX:03-5472-4567

E-Mail:850@jodo-tokyo.jp

浄土宗東京教区・
教化団の公式ホームページ



3分WEB法話が見られる東京教区
YouTube公式アカウント



梅窓院の仏教講座講師シリーズを締めくくって頂くのは本林靖久先生です。先生はブータンの幸せについて研究され、大いに話題を呼びました。本講座でもブータンはもちろん、今の私たちに関わる仏教テーマを取り上げて頂いています。

◆梅窓院から仏教講座を依頼された時に思ったこと、感じられたことをお教え下さい。

本林靖久先生(以下 本林) 平成18年(2006年)10月に、梅窓院、傳通院、祐天寺などのご住職をブータンにご案内する機会がありました。その折に、梅窓院のご住職から、ブータンが提唱するGNH(国民総幸福)やブータン人の仏教世界観を是非とも仏教講座で話して頂けませんかとご依頼がありました。その時は、『ブータンと幸福論』が出版される直前でもあり、多くの方に読んでもらいたい、買ってもらいたい(笑)という気持ちもあり、喜んでお引き受けしました。それから毎回テーマを変えつつ、よくここまで続けてきたものだと思います。

◆そうした経緯があったのですね。いつも魅力的ですが、テーマを決める時の視点と理由をお教え下さい。

本林 自分が興味や関心を持って調査・研究してきたことが、一応まとまった時点でそのテーマを講座にあげています。2時間の講座を3回シリーズで話すとなると、相当な準備と蓄積が必要になります。付け焼き刃では、大学生にはばれないかもしれませんが、ここではばれてしまいます(笑)。この講座は、自分の研究テーマをブラッシュアップ(磨きをかける)する場になっているのかもしれませんが。

◆なるほど。確かに色々な方が参加されていますからね。お話をされる際に心掛けられていることはありますか。

本林 この講座にご参加の方々には、当然のことながら幾多の人生経験を積んで来られています。また、マニアックな方も見られます。以前、奈良の東大寺二月堂のお水取りのお話をしたときには、30年以上も毎年お水取りに行かれています方がお二方いました。講座後、その方々とお話していて、知識ではかなわなかったと思います。謙虚にならざるを得ないですね(笑)。もちろん、私としては題材をどのような視点で料理するのが勝負となりますが、参加者のご意見は勉強になります。特にコロナ以前にはあった講座後の茶話会は、ざっくばらんな意見が飛び交い、現在の新たな宗教問題を考えるきっかけを提供してもらえたように思います。

石川県河北郡津幡町の山間にある妙成寺。4月中旬からは境内に色とりどりのシャクナゲの花が咲き誇り、「シャクナゲの寺」として知られています。



ブータンが結びつけた中島住職と一緒に。

◆やはり、顔を合わせての時間はいいものなのですね。最後に先生の仏教講座の魅力をアピールして下さい。

本林 私の場合は、『経典』を読み解くような高尚な研究ができなくて、外に出て「現場(フィールド)」を見て、聞いたり感じたことを伝えています。そして、実際に生活している人々の年中行事や人生儀礼などの宗教儀礼を通じて、宗教の果たす役割を伝えています。

近年は、死は絶対的な不幸だと考える人が多いようですが、私はブータン人の生き方をヒントに、日本人にとっての「死をふくむ幸福」を提唱しています。そのためにもしっかりと『経典』を読むことも大事になっていきますが……。また、機会があれば、私なりの経典解釈もしてみたいと思っています。

◆ありがとうございました。梅窓院仏教講座を引き続きよろしくお願ひ致します。



親しみやすいテーマを優しく伝えて下さいます。

プロフィール

1962年石川県生まれ。1991年、大谷大学大学院博士課程修了。博士(文学)。専門は宗教人類学、宗教民俗学。大谷大学真宗総合研究所特別研究員。大阪大学、佛教大学等非常勤講師。浄土真宗妙成寺住職。日本宗教学会副代表委員、日本GNH学会理事。著書に『ブータンと幸福論—宗教文化と儀礼—』(法蔵館)、『ブータンで本当の幸せについて考えてみました。「足るを知る」と経済成長は両立するのだろうか?』(阪急コミュニケーションズ)など。

青山散歩道

Mar Mare(マルマーレ)

今回ご紹介するのは、梅窓院から徒歩4分、少し奥まった場所にある隠れ家的レストランの地中海料理専門店Mar Mare(マルマーレ)。以前は八重洲にあったお店ですが、東京駅前再開発に伴い青山にニュー

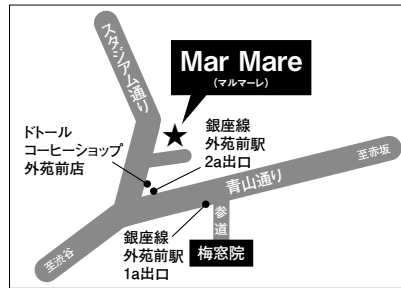


開放的で落ち着いた雰囲気の内店は様々な用途で使用できます。

オープンしました。店内は地中海の海辺のレストランをイメージした青と白を基調とした明るく広々とした空間になっています。

「魚とワイン」が特徴で、フレンチ歴20年のシェフが丹念に仕上げこだわった素材やソースで作られる、新鮮な魚介料理と世界中から集めた45種類以上のワインをお値打ち価格でお楽しみ頂けます。また、お通しのマグロのタルタルと自家製フォカッチャはお代わり自由となっているのも嬉しいサービスです。

ランチではドリンクとサラダのビュッフェがついている上に、お子様連れや団体様、貸切も大歓迎とのことなので、墓参帰りや法要後にぜひ足を運んでみて下さい。



営業時間/
平日
ランチ 11:00~15:30
ディナー 17:30~23:30
土日祝日祝前日
ディナー 16:00~23:00
定休日/無休
※ 最新情報は店舗まで直接お問い合わせ下さい。
席数/66席
住所/東京都港区北青山2-7-25
神宮外苑ビル1F
TEL/03-3475-3300



旬の食材を贅沢に使用したパエリアは汁気を多く残して炊き上げるメロン仕立て。

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○ 秋場所の余韻にひたる屋台酒

◎入選

- 病床で月を乗せてる指の先
- 摩天楼を眺めてお茶を飲む残暑
- ハロウインの仮装行列にぎやかな柿食えば空腹の腹鳴るばかり
- 生垣のひよんなどころに曼珠沙華
- 午後の日が差してきてをり烏瓜
- ゴム長の店主がすくふ新豆腐
- 秋とんぼ如雨露のノズル取れたまま
- 着る服に迷っていたる秋の朝

◎選者詠

○ 土手のぼりきればズボンに草風 大崎 紀夫

○ワンポイントアドバイス

「俳句は文語で」という俳人がいますが、いまは口語俳句を作る人が多くなっています。なじみの薄い文語より口語の方がピンとくるからかもしれません。いま40歳の神野紗希という女性俳人は「いま、渋谷の交差点、雪が降っている」といった句を作っています。現代的な感覚が表現されていて、口語俳句の面白さがあります。言葉は自分の思うように使えばいいということです。

投句募集

今回は「冬の季語」でご自由にお読み下さい。1月4日(木)を締切、令和6年2月発送の『春彼岸号』にて発表致します。郵送・FAX・メールのいずれかの方法で、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。
〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係
FAX:03-3404-8436(広報檀信徒部)
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウェブ編集室
電話03-5368-1870

第九十三回

食は命

食養研究家
武鈴子

滋養たっぷり
「臘八粥」

12月のことを「臘月」と呼び、その8日を「臘八」と称します。この日はお釈迦さまが苦行や断食では悟りは開けないと気づいて、菩提樹の下で49日間瞑想にふけり、ついに悟りを開いた日とされています。

長い苦行の後、山を下りたお釈迦さまが、ナイランジャー河で沐浴して衰弱した体を休めていたところ、通りかかった長者の娘・スジャータから乳粥の施しを受けて、体力を回復したという伝説があります(「年中行事百科」より)。

お釈迦さまの疲れを癒したという「乳粥」は、インドではキールといい、デザートとして各家庭で作られているとか。お米に数種のナッツ類、酒粕、味噌を加えて牛乳で炊いた甘みのある滋養たっぷりのポタージュ風のお粥らしいです。おいしそうですね。私も、一度試してみたいと思います。

これは「臘八粥」「五味粥」「紅糟粥」などとも称されていて、これにちなんでこの日禅宗では、坐禅修行後や法要後に小豆や大豆などの入ったお粥が振る舞われるといひます。

年越しから年始にかけての諸々の行事で疲れた心身を、オリジナルの「臘八粥」で癒してみたいと思います。

ジャパンエキスパートシステム墓苑事業部からのお知らせ

先日、法要前におばあちゃんが口紅を塗ってもらっていました。祖母「この色なの？」孫「今はこの色よ」と唇の輪郭から丁寧に縁取って塗っているところに私が行ったら「森さん、この色どう思う？似合う？」孫「良いですよ？可愛いし」私「お孫さんが可愛いって言って塗ってくれているのだから可愛いですよ」

おばあちゃんは鏡を見て満足……されていたと思います。

マスク生活が一段落して口紅を塗るようになったら、あら大変、口紅無いわよ。最後に口紅購入したのでいつだった？そこで最新色の口紅を持った助っ人が登場したようです。可愛い紅を塗ってお堂に向かい故人様と向き合ったのでしょうか？

法要後の墓参時に参道ですれ違った際もまた「どう思う？この色？」と再度聞かれました。もしかしたら買いに行ったかもしれませんね。こんな他愛のない会話ができるようになったことに感謝です。皆様、今年もまたよろしく願い申し上げます。

(墓苑部一同より)

行事予定

第85回念仏と法話の会

2月1日(木)

時間 13時～(受付12時30分より開始)

行程 別時念仏会／法話

法話 自分の死を見つめて生きる

講師 東京教区 浄心寺住職 佐藤雅彦上人

令和6年 年間行事予定

※予定は変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

- ◆修正会法要 1月1日(月)
- ◆第85回念仏と法話の会 2月1日(木)
- ◆春彼岸会法要・寄席・物産展 3月20日(水)
- ◆はなまつり 4月2日(火)～8日(月)
- ◆大施餓鬼会法要 5月18日(土)
- ◆開山忌法要・能楽奉納 6月8日(土)
- ◆第86回念仏と法話の会 6月27日(木)
- ◆盂蘭盆会法要 7月13日(土)
- ◆秋彼岸会法要・寄席 9月22日(日)
- ◆第87回念仏と法話の会 10月10日(木)
- ◆十夜法要 11月16日(土)

発行 梅窓院
 発行日 令和6年1月1日
 発行人 中島 真成
 編集 梅窓院 広報檀信徒部
 住所 〒107-0062
 東京都港区南青山2-26-38
 電話 03-3404-8447
 F A X 03-3404-8107
 ホームページ <https://www.baisouin.or.jp/>
 E-Mail jodo@baisouin.or.jp
 題字 中村康隆元浄土門主
 総本山知恩院第八十六世門跡

令和5年度 後期 仏教講座のご案内

講座：午後1時～午後3時(受付は正午より)

講題：般若経の私解私釈―「大乘仏教を理解する」シリーズ(9)

講師：勝崎 裕彦 先生(大正大学名誉教授、香蓮寺住職)

第2回 1月18日(木)小品系般若経第六章品II 一教説構造の解析

第3回 2月15日(木)小品系般若経第六章品III 一恒伽提婆天女の物語

講題：ご法事の「お経」を読む

講師：阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)

第3回 2月22日(木)正宗分とご法語、流通分(結部)

講題：「墓」の宗教民俗学

講師：本林 靖久 先生(大谷大学、佛教大学講師、浄土真宗妙成寺住職)

第3回 3月 8日(金)殯(モガリ)にみる凶癘魂と鎮魂

申込電話番号：03-3404-8588(受付時間9～17時)

仏教講座の申込はこちらから▶



お檀家さんに伺いました

令和5年 盂蘭盆会にて

『大切なご先祖様に会いに来ました』

梅窓院さんには普段から本当にお世話になっていて、墓参にもよく来ています。中でも泉さんにはとても親身になって頂いて、感謝しています。

お墓を探しているときに主人の同級生に紹介してもらったのがご縁の始まりでした。初めて来たときは趣のある旧本堂だったのですが、その後すぐに建て替えが始まり、今の現代的な建物になりましたね。ご先祖様には「今日もみんな元気ですよ」とお伝えしようと思います。

お知らせ 消防訓練

11月7日(火)梅窓院では消防訓練を行いました。僧侶や職員が消火活動を実践し、より一層防災意識を高めました。

